



DOLL HOUSE

KURATEMACHI
2019 - 2020
ドールハウス

CONCEPT

観光資源はモノからコト、そしてヒトへ。観光資源の少ない地域にとって、祭りやイベントは形のない観光資源となる。廃校を利用した「くらて学園」は国内外からアニメやコスプレの聖地の一つとして注目を集め、地域の活性化を期待できコンテンツである。空き家問題の解決にむけて、「くらて学園」に通う生徒の家として『dollhouse』を提案する。情報を発信するソーシャルメディアのみならず、リアルなコミュニケーションをも求めるコスプレイヤーの力は有効な資源となる。

地域活性化と地域交流

- ① 『dollhouse』は、くらて学園のパーチャル生徒（人気コスプレイヤーまたはパーチャルくらて学園のアニメキャラクター）が暮らす家としてスタートする。（目標は一般プレイヤーの生徒化）
-
- ② 町内に点在させたdollhouse(生徒の家)は一般プレイヤーの参加により、dollhouse同士のネットワークを築き、空き家、空き室を減らしていく。大きな空き家はシェアドールハウスとすることも。
-
- ③ 同趣向の人々が集まり、dollhouse(生徒の家)はネットワークを広げていく。少しずつ町内に小規模なdollhouseが増えることで住民との交流が徐々に行われ、街全体がコミュニティの場となるだろう。

doll houseについて

- ① 『dollhouse』は、“表現空間”である。生徒自身のキャラクターに合わせて演出することも、自身の生活感を出すことも自由だ。
-
- ② dollhouseには定期的にくらて学園の人気生徒が現れ、訪れた人は人気コスプレイヤーとその家で過ごすことができる。（生活を覗きみることも）
-
- ③ dollhouseを開放した一般のコスプレイヤーも含め、ヒトとヒトの輪は町内外に広がる。また、“表現空間”としてアーティストなどの活動の場となるだろう。

空き家再生

- ① 現代社会においてスマートハウスに代表されるように、ライフスタイルやそれを取りまく環境は大きく変わった。現代のスタイルに沿った建物へ再生することが必要となる。
-
- ② 自由度が高いフレキシブルな空間を目指す。襖や障子で分節されていた空間を大きな1空間とし、必要に応じて既設建具を挿入できるように計画とした。※日本家屋の良さはそのまま。
-
- ③ 生徒の表現空間とするため、自由に演出できるスケルトン空間（下地空間）とする。合板で覆われた壁、柱は下地となり、自在に内装や装飾をほどこすことができる。また、合板での被覆により、解体は最小限となる。

